

環境指標の状況について

平成23年度末時点における、環境指標（環境基本計画において設定）の状況は次のとおりです。

1 全般的な状況

指標の状況を、①すでに目標を達成しているもの、②指標が基準値より改善しているもの、③基準値から横ばいであるもの、④基準値から改善していないもの、⑤事業を廃止したものに分類した結果は、右表のとおりです。（詳細は、「3 環境指標一覧」のとおりです。）

推進状況の分類	項目数 (前年度)	項目数 (今回)
① 目標を達成しているもの	32	29
② 指標が改善しているもの	17	18
③ 指標が横ばいであるもの	2	1
④ 指標が改善していないもの	4	7
⑤ 事業を廃止したもの	1	1
計	56	56

目標を達成している指標は29項目（51.8%）と前年度から3項目減少した一方、指標が改善していないものが7項目（12.5%）と前年度から3項目増加しました。

指標が改善していないものの内、環境科学研究所に関する来館者や施設利用者等の指標（指標番号39, 45, 46, 47）及び富士山スバルラインのマイカー利用率（指標番号52）については、平成23年3月に発生した東日本大震災等による影響を受けて指標が悪化していると考えられます。

指標が横ばい、あるいは改善していないものについては、引き続き原因の分析や施策事業の見直しを進め、目標の達成を図ることとします。

2 主要な指標の動向

- 一般廃棄物、産業廃棄物の総排出量や最終処分量は引き続き減少しており、今後も、廃棄物の発生抑制等に係る施策を総合的、計画的に推進していきます（指標番号1～6）。
- 大気環境については、光化学オキシダント¹を除いたその他の指標項目について、環境基準が達成されました。（指標番号16～20）。
- 水質については、湖沼における環境基準達成地点数は、全5地点中4地点の達成にとどまりました。河川においては、全ての地点（22地点）で環境基準を達成しました。引き続き、下水道や浄化槽といった生活排水処理施設の整備等を推進します（指標番号23, 24）。

¹ 1年間で昼間の1時間値が環境基準を超えた場合が1回でもあると非達成となる。全国で達成した測定局は1,177局中0局(H22)。

3 環境指標一覧

基準値、現状値及び目標値のかつこ内は年度。かつこ書きがない目標値は計画最終年度（H25）の目標。

	指標の項目	基準値	現状 (平成23年度末)	目標値	推進 状況	備考(平成23年度末)
1	一般廃棄物総排出量	348千t(H15)	316千t(H22)	312千t(H22)	↗	
2	県民1人1日当たりごみ排出量(資源回収されるものを除く。)	1,030g(H15)	955g/日(H22)	937g/日(H22)	↗	
3	一般廃棄物リサイクル率	17.3%(H15)	18.7%(H22)	28%(H22)	↗	
4	産業廃棄物総排出量	2,000千t(H15)	1,801千t(H22)	2,302千t(H22)	○	
5	産業廃棄物再生利用量	993千t(H15)	888千t(H22)	921千t(H22)	○	
6	産業廃棄物最終処分量	247千t(H15)	171千t(H22)	161千t(H22)	↗	
7	自然環境保全地区面積(自然造成地区は除く。)	3,650ha(H15)	3,650ha	3,650ha	○	
8	鳥獣保護区等指定面積	77,227ha(H15)	74,795.9ha(H23)	74,795.9ha(H28)	○	
9	自然監視員委嘱数	216人(H16)	155人(H23)	250人	↘	
10	山岳レインジャーの延べ人数	312人(H19)	228人(H23)	228人	○	
11	緑サポーター登録者数	60人(H15)	177人(H23)	360人	↗	
12	自然公園等利用者数	3,381万人(H14)	4,056万人(H22)	3,653万人	○	
13	「森林文化の森」パートナー数	5団体(H15)	15団体(H23)	15団体	○	
14	富士山山小屋トイレ整備率	33.3%(H15)	100%(H23)	100%	○	
15	河川水辺環境整備箇所数	67箇所(H15)	81箇所(H23)	90箇所	↗	
16		二酸化硫黄3測定局中3測定局(H15)	3測定局(H23)	3測定局	○	
17		一酸化炭素2測定局中2測定局(H15)	2測定局(H23)	2測定局	○	
18	大気汚染に係る環境基準達成測定局数(光化学オキシダントのみ短期的評価、その他は長期的評価)	浮遊粒子状物質12測定局中12測定局(H15)	12測定局(H23)	12測定局	○	
19		二酸化窒素11測定局中11測定局(H15)	11測定局(H23)	11測定局	○	1測定局が有効測定時間に満たなかったが、参考として評価すると基準を達成していたため、全ての地点で環境基準を達成と評価
20		光化学オキシダント10測定局中0測定局(H15)	0測定局(H23)	達成率の向上を図る。	→	原因物質の濃度は低減傾向にあり、引き続き大気汚染防止法に基づく原因物質の排出規制等の対策を進める。全国の達成率は0%(H22)
21	低公害車導入台数(軽自動車を除く。)	49,940台(H15)	172,251台(H22)	増やす。	○	154,718台(H21)
22	エコドライブ宣言車両率	12.3%(H15)	20.0%(H23)	16%	○	
23	水質汚濁に係る環境基準達成地点数	河川22地点中18地点(H15)	22地点(H23)	22地点	○	
24		湖沼5地点中3地点(H15)	4地点(H23)	5地点	↗	
25	生活排水クリーン処理率	63.9%(H15)	77.2%(H23)	82%	↗	
26	ダイオキシン類の環境基準達成地点数(大気、公共用水域、地下水質及び土壌)	すべての調査地点で達成(H15)	すべての調査地点で達成(H23)	すべての調査地点で達成	○	
27	自動車騒音に係る環境基準達成率(昼夜間とも基準値以下)	(面的評価)73.6%(H15)	88.7%(H23)	達成率の向上を図ります。	○	
28	電線類地中化延長	38.1km(H15)	80.5km(H23)	78km	○	
29	国県指定文化財数	638件(H15)	670件(H23)	688件	↗	
30	市街地の人口1人当たりの身近な公園の整備面積	1.7㎡(H15)	1.9㎡(H23)	2.0㎡	↗	
31	「緑の教室」受講者数	641人(H15)	993人(H23)	1,000人	↗	
32	温室効果ガス総排出量	6,983千t-CO2(H17)	6,812千t-CO2(H21)	6,041千t-CO2(H24)	↗	
33	森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量	676千t-CO2(H17)	808千t-CO2(H23)	942千t-CO2(H24)	↗	

環境指標の状況について

基準値、現状値及び目標値のかっこ内は年度。かっこ書きがない目標値は計画最終年度（H25）の目標。

	指標の項目	基準値	現状 (平成23年度末)	目標値	推進 状況	備考(平成23年度末)
34	環境科学研究所における環境学習プログラム参加者数	18,547人/年(H15)	26,032人(H23)	19,000人/年	○	
35	やまなし森の教室参加人数	10,000人/年(H15)	16,366人(H23)	20,000人/年	↗	
36	学校林活動実施校数	23校(H14)	37校(H23)	46校	↗	
37	親子エコスクール参加者数	40人(H16)	-	80人	-	事務事業の見直しにより、新規事業である「環境学習における指導者派遣事業」(H21～)で所期の目的が達成できるため事業廃止
38	環境科学研究所による学習指導者派遣回数	11回(H15)	101回(H23)	15回	○	
39	山梨環境科学カレッジ修了者数	24人(H15)	16人(H23)	24人	↘	東日本大震災等の影響により募集段階(H23年4月)で受講希望者数が大幅に減少
40	環境学習指導者派遣回数	40回(H16)	50回(H23)	40回	○	H21から「環境学習指導者派遣事業」により、「環境アドバイザー」に代わって「やまなしエコティーチャー」としたため指標の項目を変更
41	環境美化活動参加者数	370,647人(H14)	582,538人(H23)	400,000人	○	
42	土木施設環境ボランティア数	16団体(H15)	89団体(H23)	86団体(H26)	○	
43	人口10万人当たりのNPO法人数	10.6法人(H15)	42法人(H23)	40法人	○	
44	森林ボランティア団体数	18団体(H15)	81団体(H23)	50団体	○	
45	環境科学研究所来館者数	46,266人/年(H15)	43,996人(H23)	50,000人/年	↘	東日本大震災等の影響により来館者数が減少
46	環境情報センター利用者数	13,671人/年(H15)	7,826人/年(H23)	19,000人/年	↘	東日本大震災等の影響により来館者数と併せて利用者数が減少
47	環境科学研究所における図書等貸出数	図書2,442冊、ビデオ679本(H15)	図書1,979冊、ビデオ509本(H23)	図書2,900冊、ビデオ760本	↘	環境に関する幅広い情報や専門図書の収集とともに視聴覚資料のDVD等への切り替えを進め、利用増を図る
48	やまなしの環境アクセス数	-	10,666件/年(H23)	12,000件/年	↗	
49	環境科学研究所研究テーマ数	27テーマ(H16)	27テーマ(H23)	27テーマ	○	
50	環境研フォーラム、国際シンポジウム参加者数	130人(H16)	140人(H23)	130人	○	
51	富士山周辺の環境美化活動参加者数	29,000人/年(H15)	35,540人(H23)	30,000人/年	○	
52	富士山スバルラインのマイカー利用率	29%(H22)	33%(H23)	前年より低くなる。	↘	東日本大震災等の影響によりツアー等の大型バス利用者が減少し全通行者数が大幅減となったため、マイカー利用は、台数の減少にもかかわらず利用率が前年度と比べ上昇
53	新規林業就業者数	41人(H15)	29人(H23)	50人	↘	H21・H22年には目標値を達成し、直近3ヶ年の定着率も60%程度で推移していることから、事業者が新規採用を控えていることが減少の原因と考えられる
54	水源の森づくり面積(育成複層林面積)	8,000ha(H15)	15,702ha(H23)	17,000ha	↗	
55	エコファーマー認定者数	2,080人(H15)	7,417人(H23)	4,000人	○	
56	甲斐のこだわり環境農産物認証件数	22件(H15)	35件(H23)	年間100件	↗	

推進状況の凡例

○	目標を達成しているもの
↗	指標が改善しているもの
→	指標が横ばいであるもの
↘	指標が改善していないもの
-	事業を廃止したもの